

## 国内希少野生動植物種に追加する種の概要

種名 (学名)	指定要件*	指定理由 (生息状況等)
ウラジロヒカゲツツジ ( <i>Rhododendron keiskei</i> var. <i>hypoglaucum</i> ): ロド デンドロン・ケイスケイ 変種ヒュボグラウコム)  分類: ツツジ科 ツツジ属	ア、エ	①種の特徴: 日本固有種(変種)。小型の常緑低木で、高さ1～2m。葉は互生し、やや革質。葉身は楕円形で先はやや鈍く、裏面は細かい繊維が密生して粉白色を帯びる。4～5月に枝先の1個の花芽から2～4個の淡黄白色の花が輪になって開く。花は母種のヒカゲツツジに比べるとかなり白味が強い。 ②分布域: 栃木県、群馬県、埼玉県、東京都の山岳地域の尾根や谷筋の岩の上に生育する。 ③個体数: 200株未満と推定(2011年環境省調査)。栃木県の一部の山では、手の届く岩場の株がすべて採取されていると報告されている。 ④減少要因: 園芸採取、シカによる食害
シモツケコウホネ ( <i>Nuphar submersa</i> : ヌフ アル・スブメルサ)  分類: スイレン科 コウホネ属	ア、エ	①種の特徴: 日本産コウホネ属5種の中の一つで、日本固有種。澄んだ流水中に生育する多年草の水草。水底を這う根茎は、年間5cm程度成長。2年に1度ほど分枝する。他のコウホネ類と異なり、水面下の葉だけを持つ。花は根茎から伸びる花茎が水面に突き出し、その先端に1つつく。開花期は6月から10月。花弁は黄色。 ②分布域: 栃木県の数カ所の水田の水路に分布。 ③個体数: 生育地全体でおよそ1,500株と推定(2011年環境省調査) ④減少要因: 生育地の開発、水路の維持管理方法の変化に伴う流水域の消失や水質の悪化、園芸採取
カッコソウ ( <i>Primula kisoana</i> var. <i>kisoana</i> : プリムラ・キノ アナ変種キノアナ)  分類: サクラソウ科 サクラソウ属	ア、エ	①種の特徴: 日本固有種(変種)。葉に長い葉柄があり、葉柄や花茎には白色の長い毛が密生する。葉身は厚く、広円形で、径5～12cm。花茎はやや太く、高さ10～20cmで、5～15個の花が輪になって1～3段になつてつく。花は紅紫色で花喉部は濃赤褐色。開花期は5月上旬。 ①分布域: 群馬県足尾山地のみに生育。 ③個体数: 1970年代にはおよそ8,000株と推定されていたが(津久井ほか 1980)、現在はおよそ800個体と推定(2011年環境省調査) ②減少要因: 園芸採取、スギ植林地の拡大による生育適地の減少

※選定要件について

○希少野生動植物種保存基本方針(平成4年総理府告示第24号)(抄)

### 第二 希少野生動植物種の選定に関する基本的な事項

#### 1 国内希少野生動植物種

(1)国内希少野生動植物種については、その本邦における生息・生育状況が、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種(亜種又は変種がある種にあっては、その亜種又は変種とする。以下同じ。)で、以下のいずれかに該当するものを選定する。

- ア その存続に支障を来す程度に個体数が著しく少ないか、又は著しく減少しつつあり、その存続に支障を来す事情がある種
- イ 全国の分布域の相当部分で生息地又は生育地(以下「生息地等」という。)が消滅しつつあることにより、その存続に支障を来す事情がある種
- ウ 分布域が限定されており、かつ、生息地等の生息・生育環境の悪化により、その存続に支障を来す事情がある種
- エ 分布域が限定されており、かつ、生息地等における過度の捕獲又は採取により、その存続に支障を来す事情がある種